

編集後記

本号特集を監修した関教授のことを、わたしは勝手に「みんなのインディアナ・ジョーンズ」とよんでいる。ペルーの山奥で月明りのもとで発掘をする姿を想像すると、考古学アクション映画のヒーローを思い浮かべる。廊下ですれ違ふと、わたしの頭のなかで映画のテーマ音楽が鳴り始めてしまう。

しかし、映画のインディアナは、ペルーのジャングル奥の神殿からは黄金の神像をもち逃げする。エジプトの市場のど真んなかでは大きなムチをふるう。あげくに、「発掘」してきた至宝が、結局「お蔵入り」になってもハッピーエンド。よく考えると、遺跡のある地域のんびとにやさしくない考古学者である。映画を批難するつもりはないが、関発掘隊の実態を聞くと、遺跡の地元への細やかな気遣いにつづく感心する。村の自治に参加し、発掘が生み出す収入が必要などころに分配されるように配慮したり、村祭りに豪華な仕掛け花火を寄付したり、現地の政府や大学とかけあって、遺跡と遺物の保存と観光資源化に頭を悩ませたり……。そこには痛快娯楽映画のヒーローとは違う「かっこよさ」が漂う。(山中由里子)

次号の予告

特集

ペットボトルの世界

月刊みんなく
2010年5月号

第34巻第5号通巻第392号 2010年5月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話 06-6876-2151

発行人 西尾哲夫
編集委員 久保正敏(編集長) 佐々木史郎 庄司博史
中牧弘允 信田敏宏 山中由里子
制作・協力 財団法人 千里文化財団
印刷 日本写真印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係に
お願いします。
*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

みんなくウィークエンド・サロン 研究者と話そう

- 予定時間 14時30分から15時30分(予定)。
- 本館展示観覧料が必要です。
- *都合により、予定を変更することもあります。

国立民族学博物館(みんなく)の研究者が来館された皆様の前に登場します!

「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」などなど、話題や内容は千差万別!
どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

5月の開催

5月2日(日)

話者: 久保正敏 (文化資源研究センター教授)
話題: 水の器から水の問題を考える
場所: 企画展「水の器」会場

5月16日(日)

話者: 八杉佳穂 (民族文化研究部教授)
話題: 言語と文字
場所: 言語展示

5月23日(日)

話者: 庄司博史 (民族社会研究部教授)
話題: 言語展示の楽しみ方
場所: 言語展示

5月30日(日)

話者: ピーター J. マシウス (民族社会研究部准教授)
話題: 民族植物学の旅
場所: 本館展示入口



日本語と同じ語順のことばにはどんなことばがあるのかな。(新言語展示)

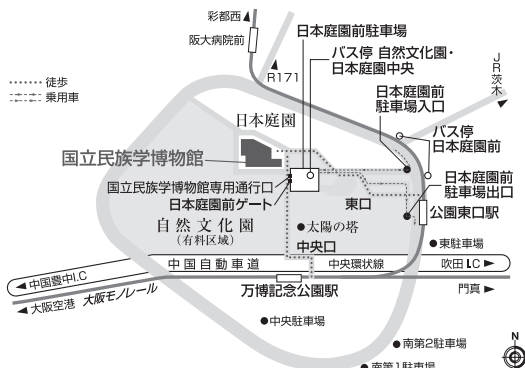
1年間みんなくに何度でも入館できる

「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

常設展は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいです。

特典◆常設展の無料入館◆特別展の観覧料割引
◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引
◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話06-6877-8893 / 平日9:00~17:00)



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分(茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。
- 自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れられます。

みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

